

# アフガニスタン



現地の人々とともに、  
村の中から、平和をつくる

政府軍と外国軍、タリバン、過激派組織ISなど武装勢力の間で激しい戦闘が継続し、都市での自爆攻撃が頻発しています。2018年の市民の死傷者数は1万人を超え、過去最悪を更新しました。一方で平和への様々な動きも見られ、6月には政府とタリバンの初めての3日間の停戦が実現しましたが、それは一時的なものに留まり、その後も戦闘は続いています。紛争に加え、深刻な干ばつにより多くの人々が避難民となり、生活が困窮しているにも関わらず、国際支援や関心は減少しています。



政府とタリバンによる画期的な停戦が実現し、歓喜に沸く人々。しかし停戦は3日後に破られた。

## 「識字アクション」地域教育 (ナンガルハル県クズ・クナール郡)

**【活動概要】** 女子教育が禁止されていたタリバン政権時代をはじめ、紛争による多大な損害を受けたアフガニスタンの教育。その再構築のため、アフガニスタン教育省は国際社会の支援を得ながら識字教育に取り組んでおり、2001年以降、教育分野でも多くの改善が見られてきました。しかしながら、全国的に都市部から離れた農村地・僻地では特に、教育環境も厳しい状況が続いています。JVCは本年度から新たに、正規の学校で学ぶ機会を逸した15歳以上の男女に、同村出身の教員から文字を学ぶ教室を開催。また、学齢期の子もたちが継続して学校に通い続けられる環境づくりや啓発活動を行いました。

**【成果】** 同地域でこれまでに培ってきた人々との信頼関係に基づいて次の展開へと移ることができ、治安状況が引き続き厳しい中でも、プロジェクトを軌道に乗せることができたのは大きな成果です。授業には、生活に根ざした実践的な学びを得るために、既成の教科書以外にも料理のレシピ作成、保健の教材や、人々にとって大切なイスラム教の要素を用いるなどの工夫も加えました。教

員研修の内容に改善の余地があったり、日雇いの仕事などで男性の欠席が増えたりなど課題もありましたが、約280人の村の男女(そのうち9割が女性)が、小学校3年生レベルの読み書き・計算を学ぶ本コースを修了しました。また、識字教室の参加者自身が啓発活動にも協力し、子どもが継続的に学校に通うことを他の村人にも推奨するような内容の寸劇などを披露しました。



初めて字を習う村の女性



女性を対象にした識字教室の様子

## 「ピース・アクション」平和・非暴力の 学び合い(ナンガルハル県の複数郡)

**【活動概要】** 紛争が続くアフガニスタンでは政府・外国軍とタリバンとの戦闘が拡大し、ISの影響も強まる中で、少年や青年たちも戦闘員としてリクルートされ、各地で有力者の再武装化なども見られるなど非常に厳しい

治安状況があります。JVCは、終わらぬ紛争の中で人々の生活に大きな影響を与えている戦闘や暴力のプロパガンダに対抗するべく、家庭や地域における争いの非暴力での解決などを、経験を交えて住民同士で学び合う活動をサポートしています。



平和を表す絵を描くワークショップに参加する村人たち



治安の状況が異なる地域間交流が実現し、当事者同士の経験共有が行われた

**【成果】** 住民間の平和と非暴力の学び合い

の場へは積極的な参加があり、参加者の意識の喚起や非暴力や平和への決意は強化されています。これを社会全体へ広げ、より多くの人々にも伝えていくためには、まだまだ継続して取り組む必要があります。ピース・アクションが開始して二年目となる本年は、これまで激しい戦闘が続き、国内でも特に治安が悪い地域と、比較的安定を保ってきたJVC活動地域の住民同士の交流がさらに深まり、お互いの村への訪問が実現しました。双方の地域の村人が集まり、平和の実現に向けた地域レベルでの活動をどのように作っていくか、これまでの経験を共有し合う場を持ちました。

## アフガニスタン事務所の 現地法人化

JVCアフガニスタン現地事務所は2019年3月、JVCから独立して現地法人化し、アフガニスタン政府登録のNGOとなりました。新しい団体の名前は Your Voice Organization (YVO) です。2019年度から、JVCとYVOはパートナーシップ契約を締結し、協力しながら地域教育と平和構築の活動に取り組んでまいります。



アフガニスタン政府への登録を無事に完了したYVOスタッフ

### 活動地からの声

**ショーピナさん**  
25歳 女性  
クズ・クナール郡

ショーピナさんは識字教室で学んでいる25歳の女性です。3ヶ月の赤ちゃんだった時、家族は内戦中のアフガニスタンから逃れ、難民としてパキスタンに移りました。その後思った病で彼女の脚は日に日に細り、治ることはありませんでした。手術もむなしく、現在も杖の生活を送りながら識字教室に熱心に通う彼女の言葉です。「この教室を修了することができたら…この脚ではどこにも行けないから、今度は自分がこの村の識字教室の先生になりたい」。

ショーピナさんが将来、識字教室の先生となって、そこで学ぶ生徒がまた新たな夢を育てていけるならば…。そんな未来に向けた学び場をともに作っていけるよう、努力していきます。



杖を使って生活しているショーピナさんは熱心な参加者の一人。

ナンガルハル県  
クズ・クナール郡/ジャララバード市

